

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
 - (8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

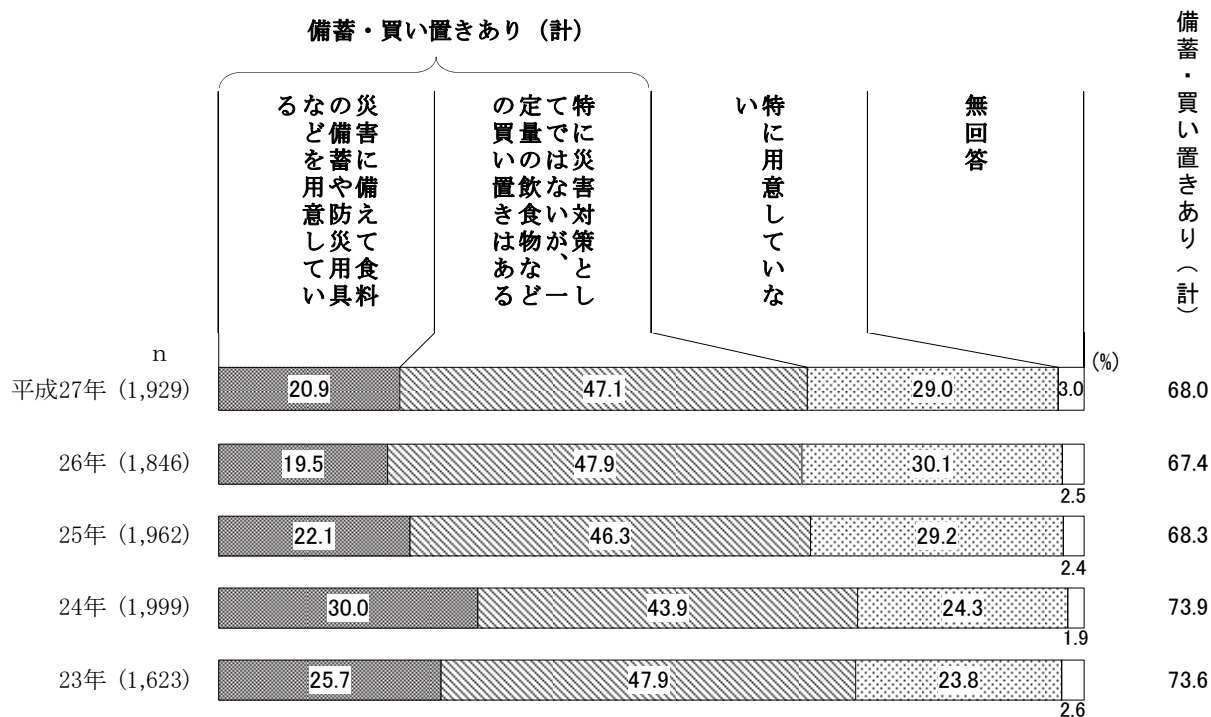
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 用意をしていない方は約3割

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.9%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.1%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は68.0%となっている。一方、「特に用意していない」は29.0%となっている。

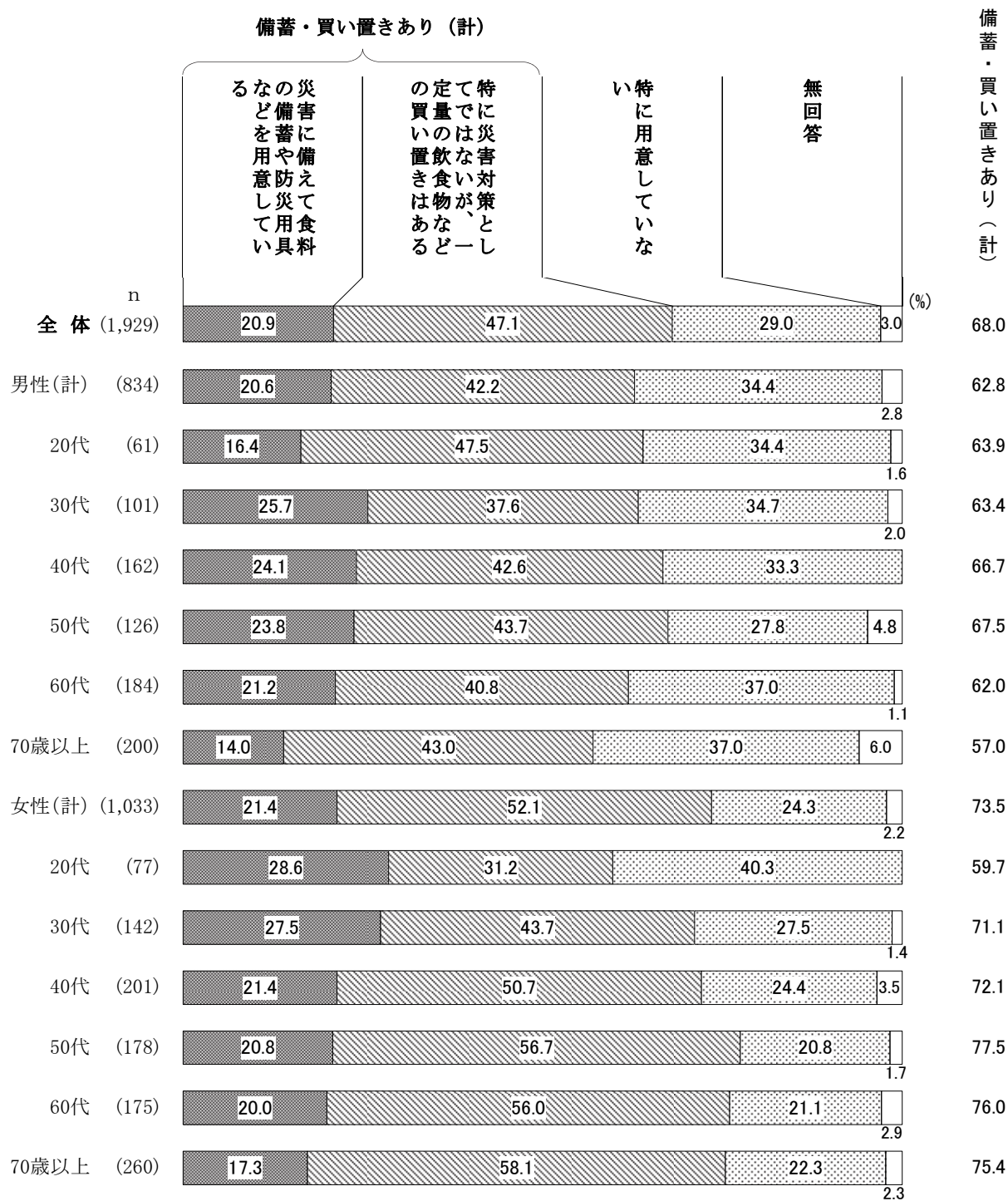
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の19.5%から、今回20.9%と微増している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、前回47.9%、今回47.1%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

性別で見ると、女性では【備蓄・買い置きあり】が73.5%と、男性（62.8%）より高くなっている。

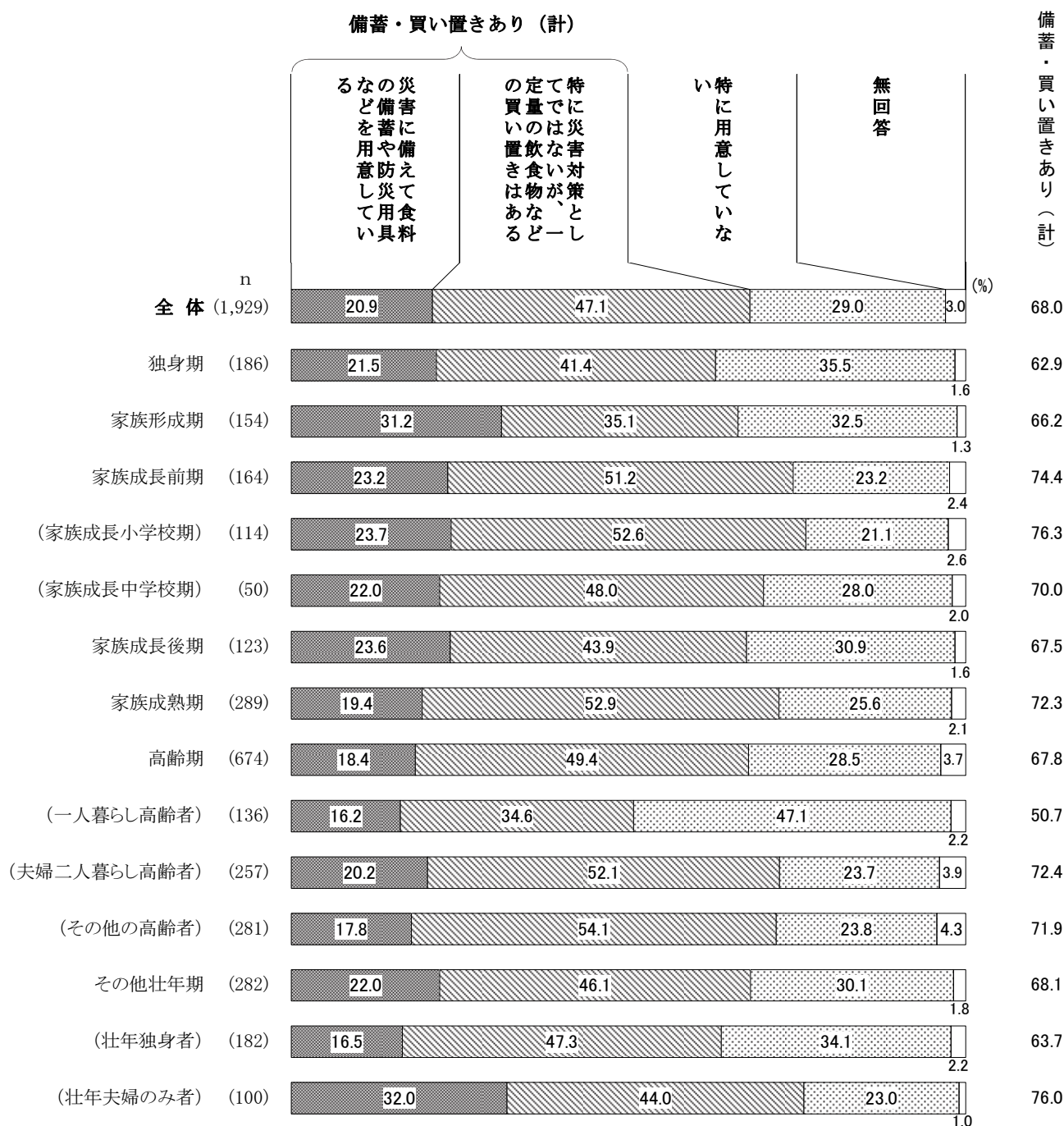
性・年代別で見ると、男性では、70歳以上を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が6割を超えている。女性では、20代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が7割を超えている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、家族成長前期、家族成熟期で【備蓄・買い置きあり】は、それぞれ74.4%、72.3%と高くなっている。

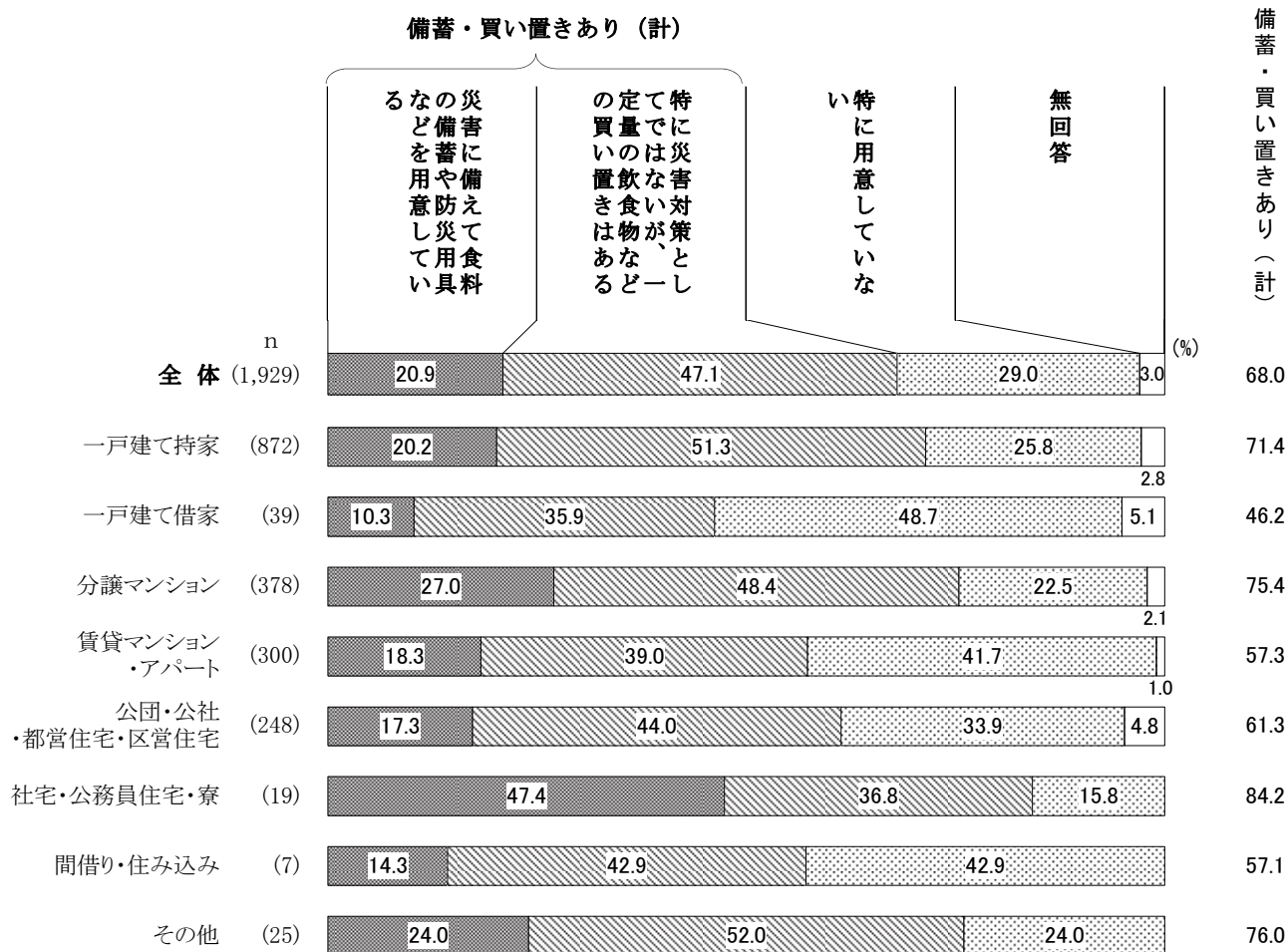
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮では【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ71.4%、75.4%、84.2%と高くなっている。一方、一戸建て借家では【備蓄・買い置きあり】が46.2%と、他の住居形態に比べて低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

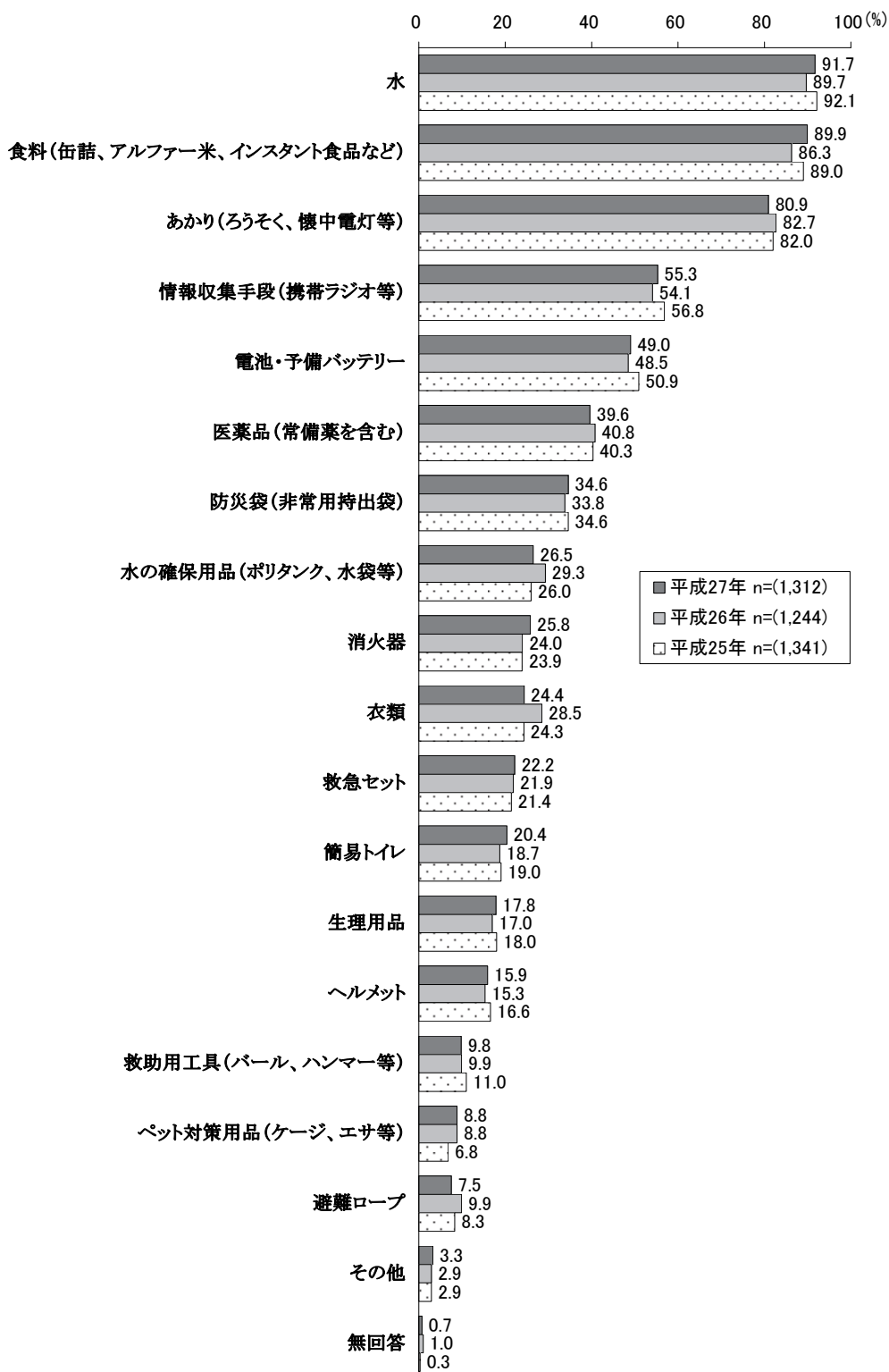


(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」「食料」は9割前後、「あかり」が約8割

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に
 問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください（〇はあてはまるものすべて）。

図2-2-1 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



第3章 調査結果の分析

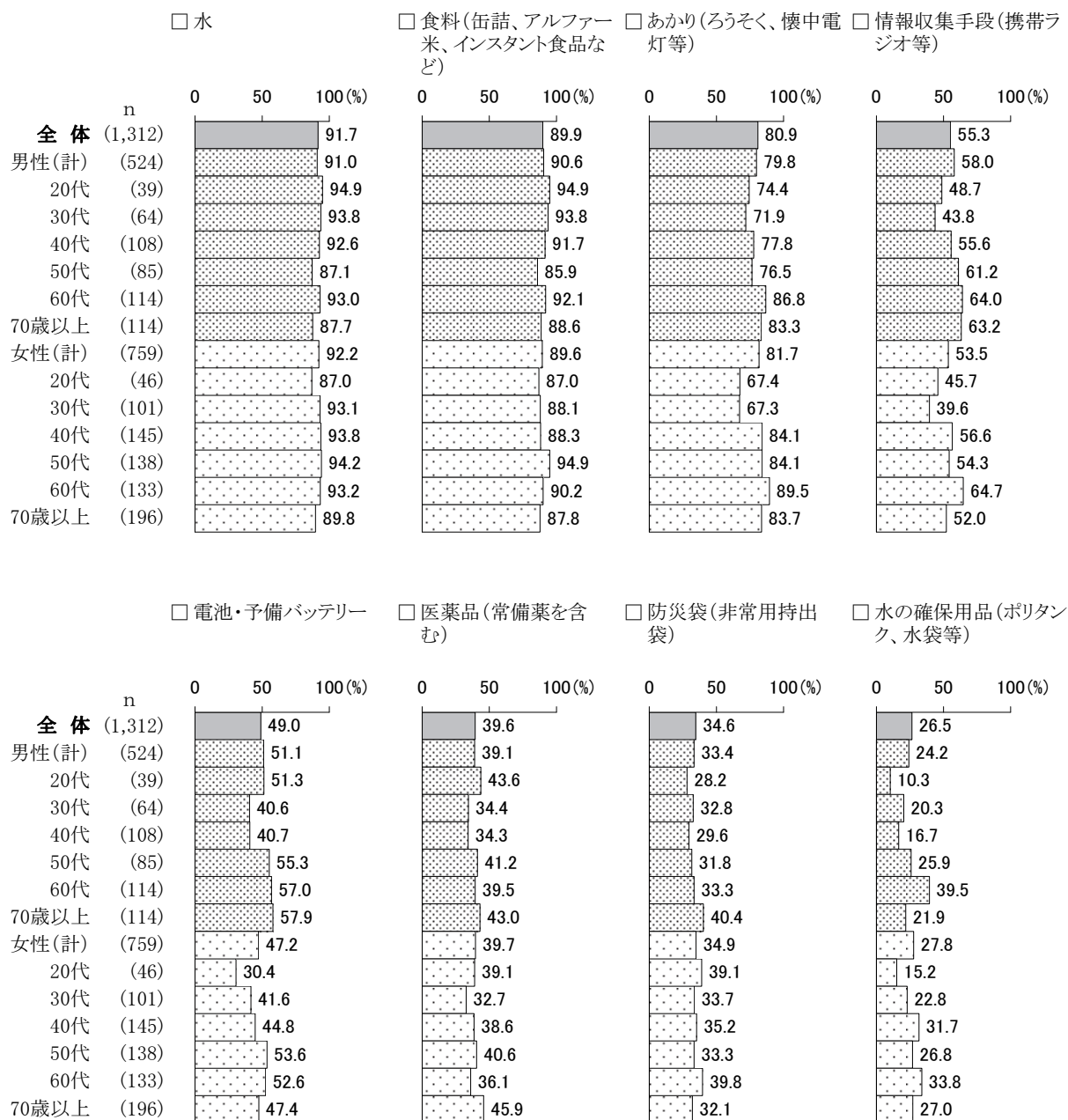
【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.7%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（89.9%）、「あかり」（80.9%）の順となっている。

経年でみると、上位3位の順位や数値に大きな変化はみられない。

性別でみると、上位3位について、男女差はみられない。

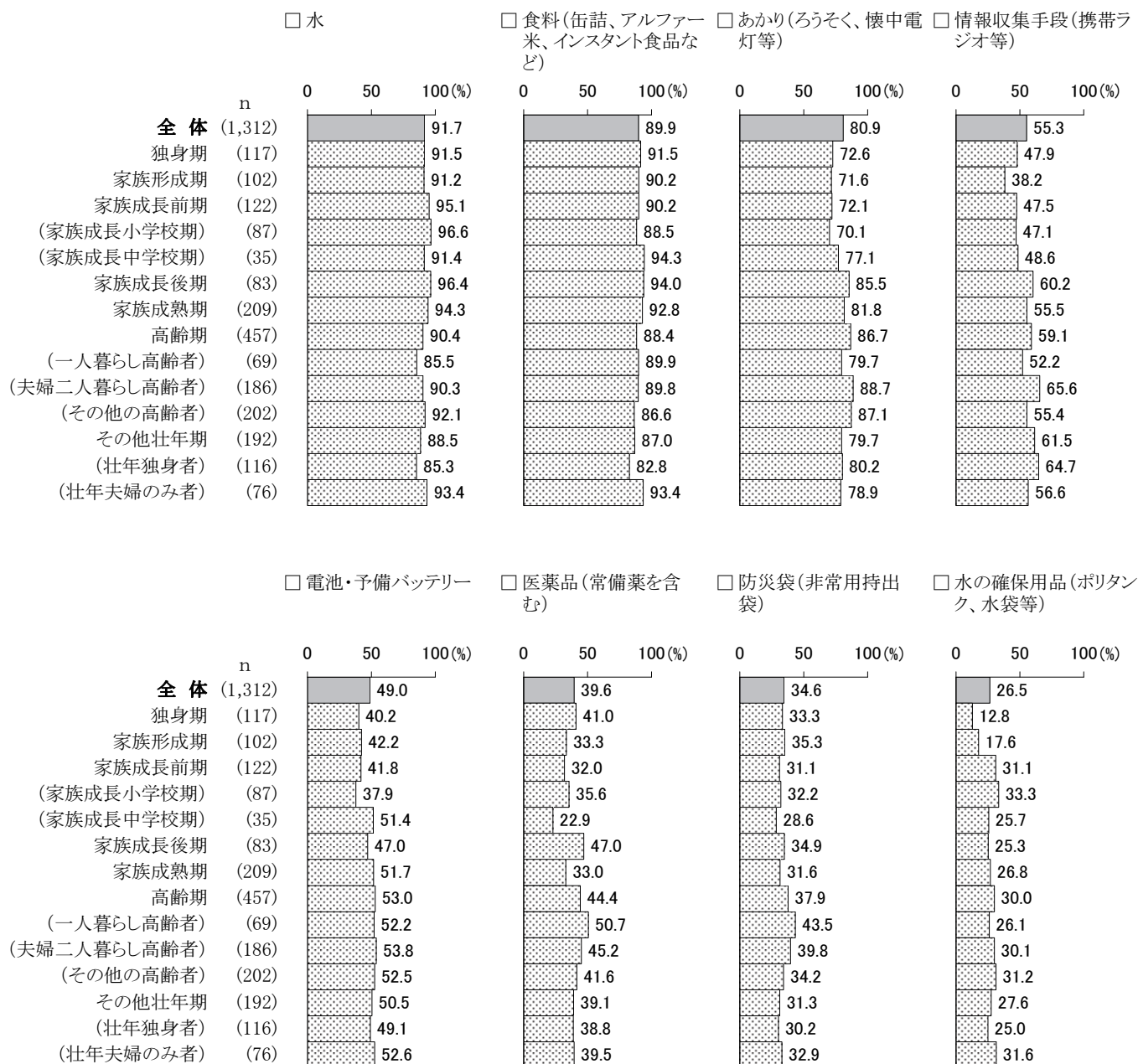
性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」については、男女とも各年代にわたって高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」については、50代から70歳以上までの男性、60代の女性で、いずれも6割を超えている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオ等）」は、家族成長後期、家族成熟期、高齢期、その他壮年期で5割を超えて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

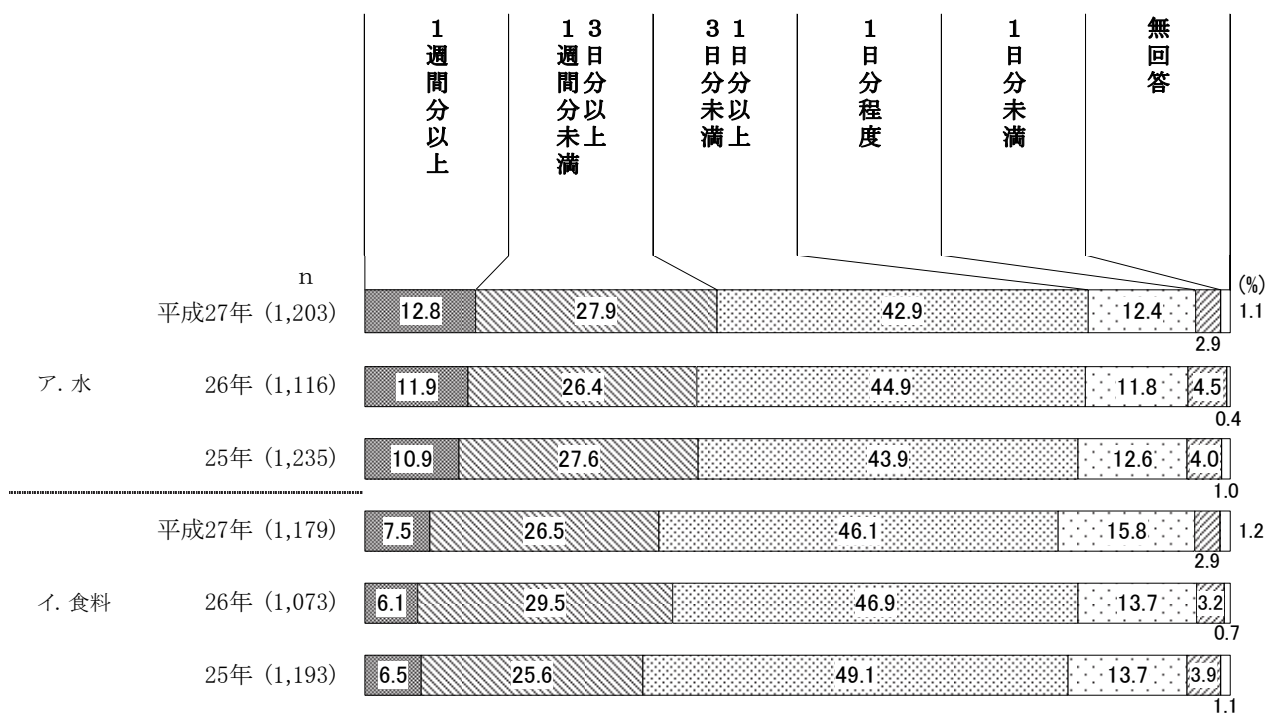
■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、4割台

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



〈水〉〈食料〉を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が42.9%で最も高く、次いで「3日以上1週間未満」（27.9%）となっている。

〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が46.1%で最も高く、次いで「3日以上1週間未満」（26.5%）となっている。

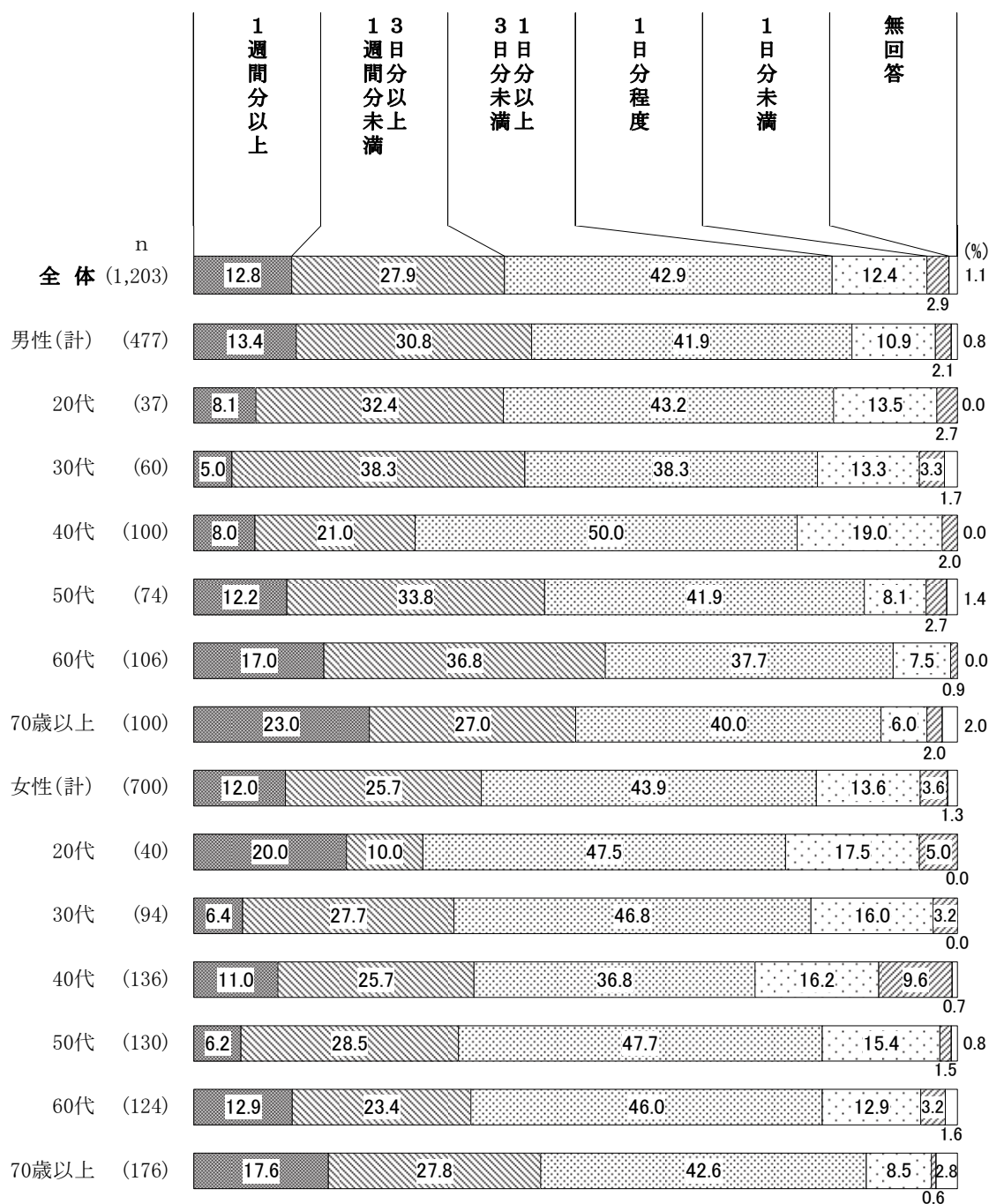
経年でみると、〈水〉〈食料〉とも大きな変化はみられない。

水の備蓄量を性別で見ると、男性では、「3日以上1週間未満」が30.8%と、女性（25.7%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、20代、40代、50代、70歳以上で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」をかなり上回っている。

女性では、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

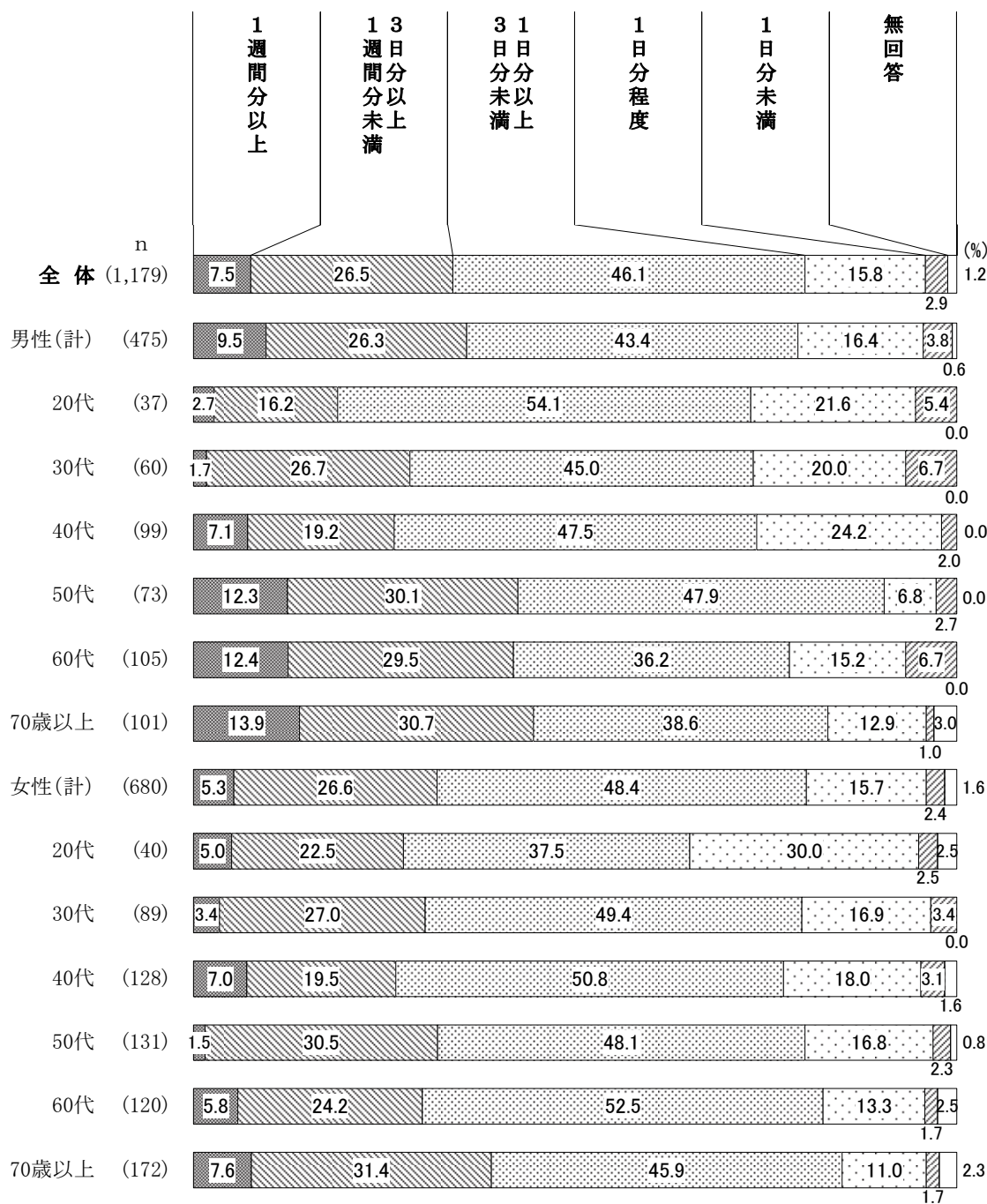


第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量を性別で見ると、女性では「1日分以上3日分未満」が48.4%と、男性（43.4%）より高くなっている。

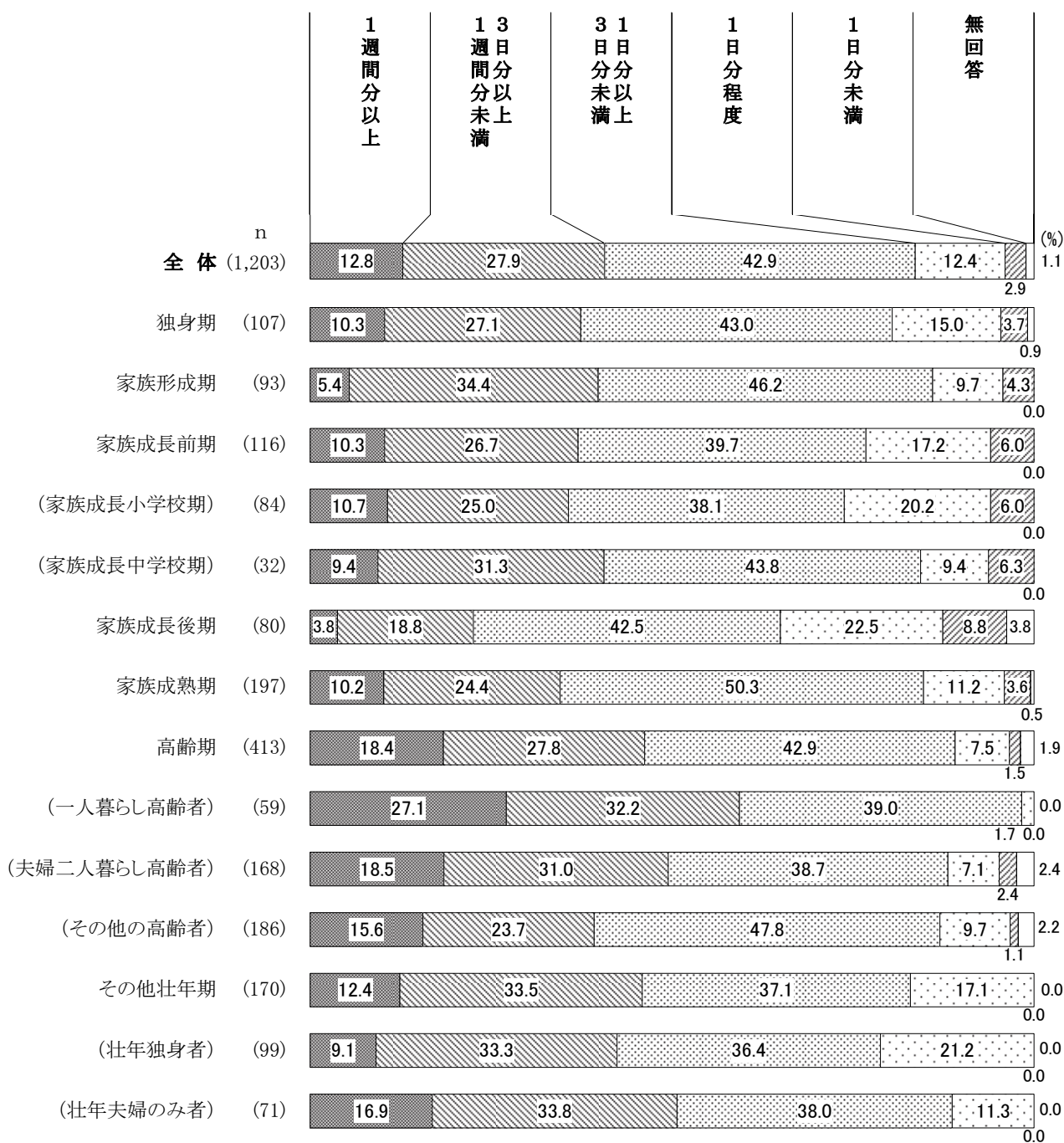
性・年代別で見ると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



水の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

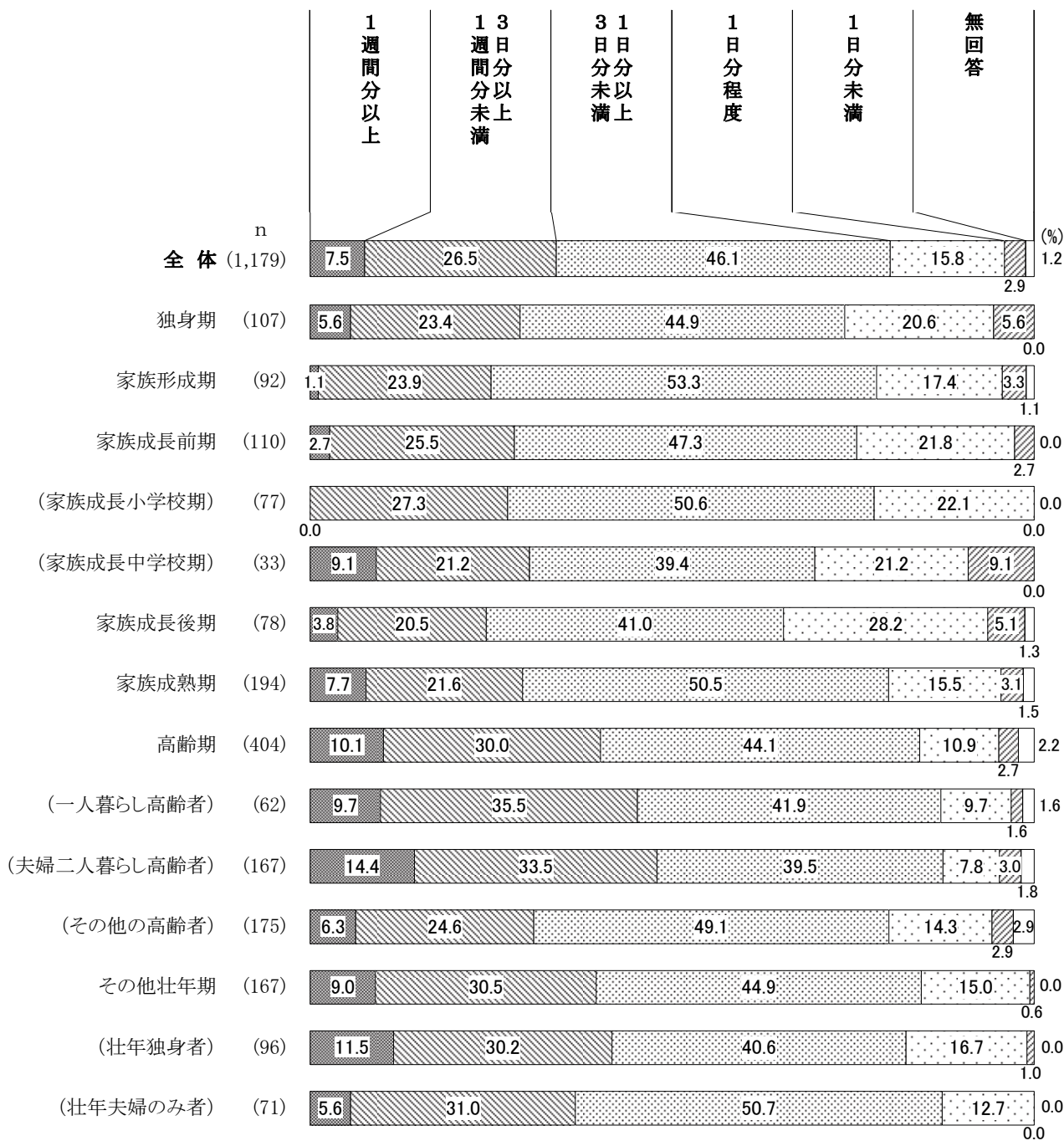
図2-3-3-① ライフステージ別/備蓄量/水



第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日以上1週間未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



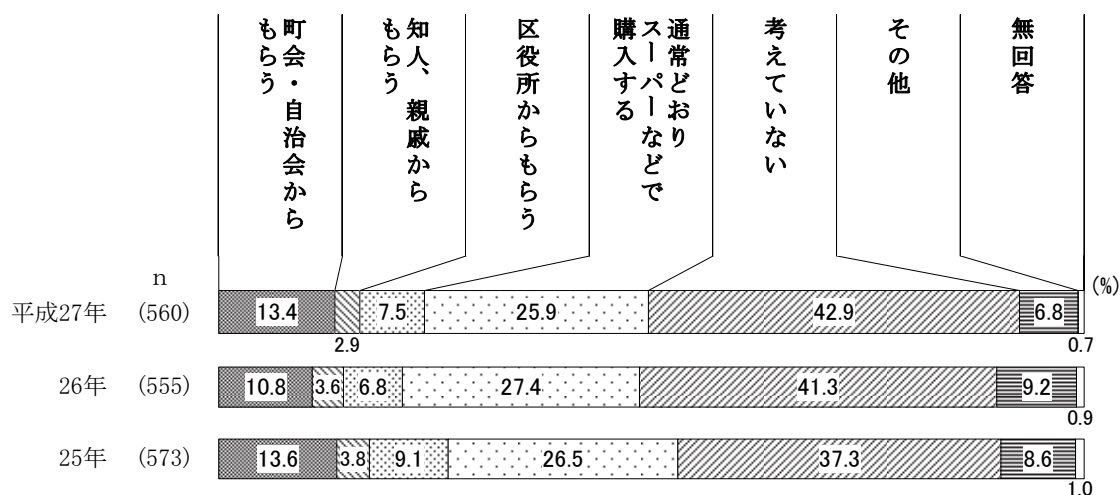
(4) 災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が微増傾向

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きをしていないという人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が25.9%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.4%)となっている。一方、「考えていない」が42.9%を占めている。

経年でみると、「考えていない」は微増傾向にある。

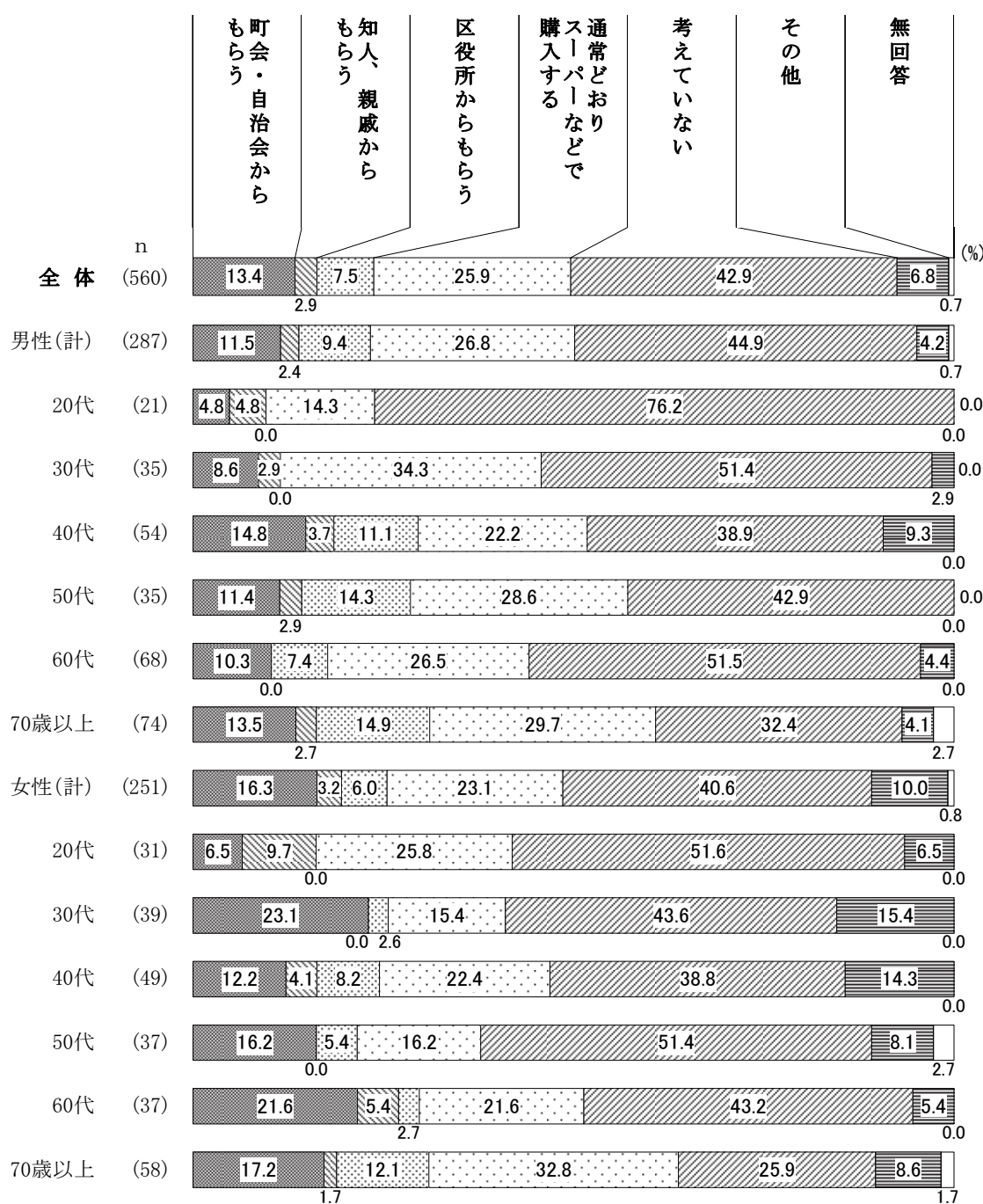
第3章 調査結果の分析

性別でみると、男性では「考えていない」が44.9%と、女性（40.6%）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20代では「考えていない」が76.2%を占めているほか、30代、60代で5割を超えている。また、30代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が34.3%と、他の年代より高くなっている。

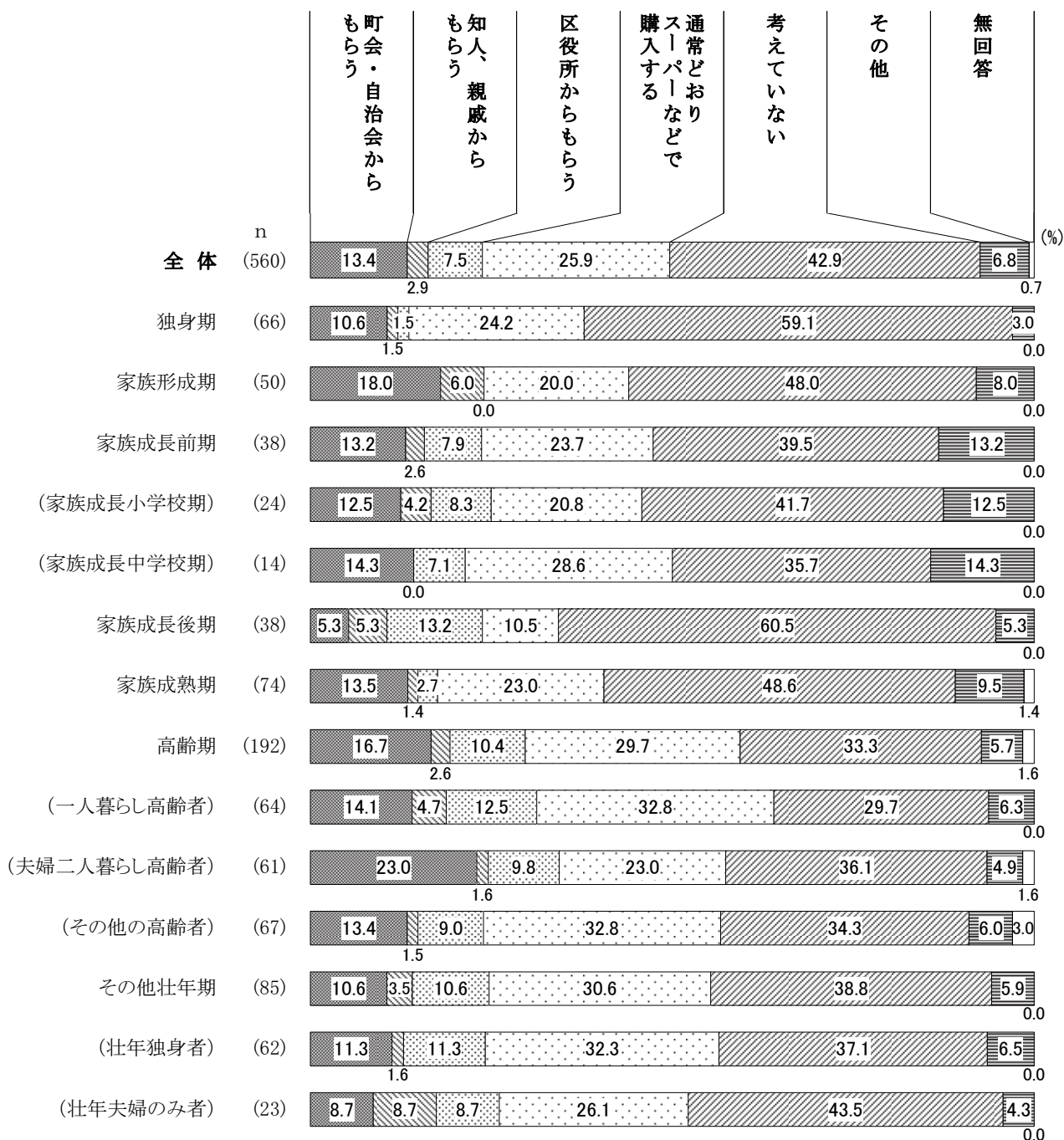
女性の場合、20代、50代で「考えていない」が、いずれも5割を越えている。また、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が32.8%と、他の年代より高くなっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別で見ると、独身期、家族成長後期では「考えていない」が、いずれも6割前後を占めている。また、高齢期、その他壮年期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割前後を占めている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

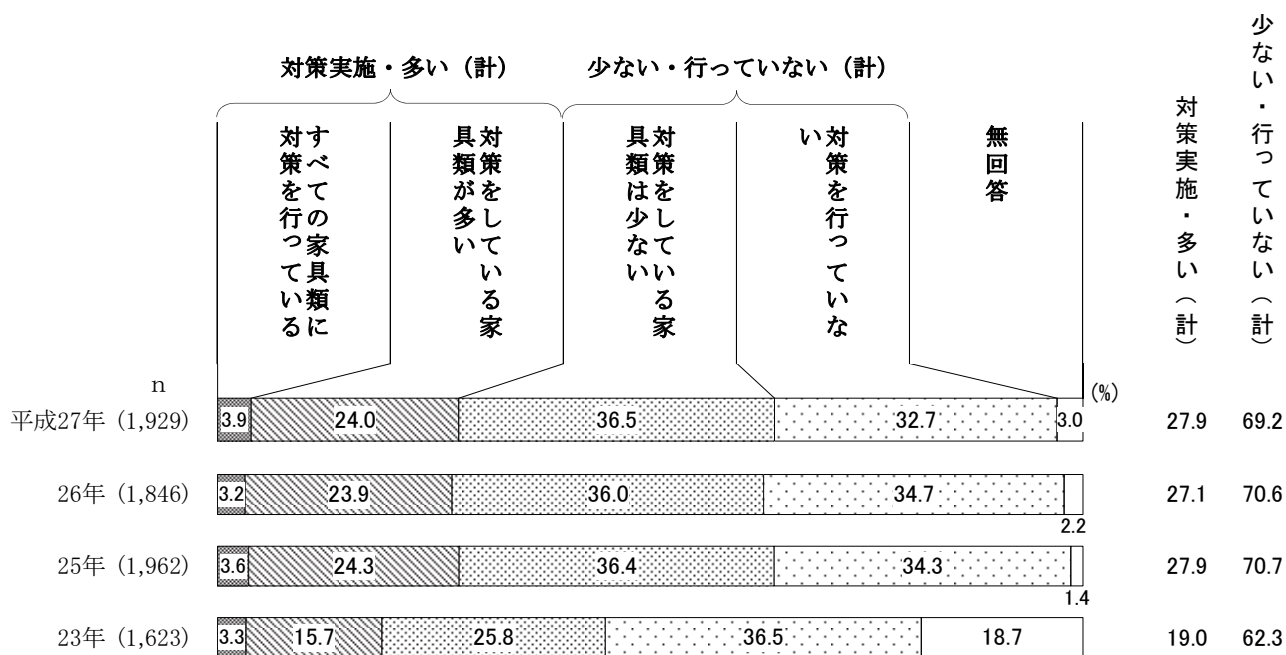


(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が約7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.0%を合わせた【対策実施・多い】が27.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.5%、「対策を行っていない」は32.7%となっている。

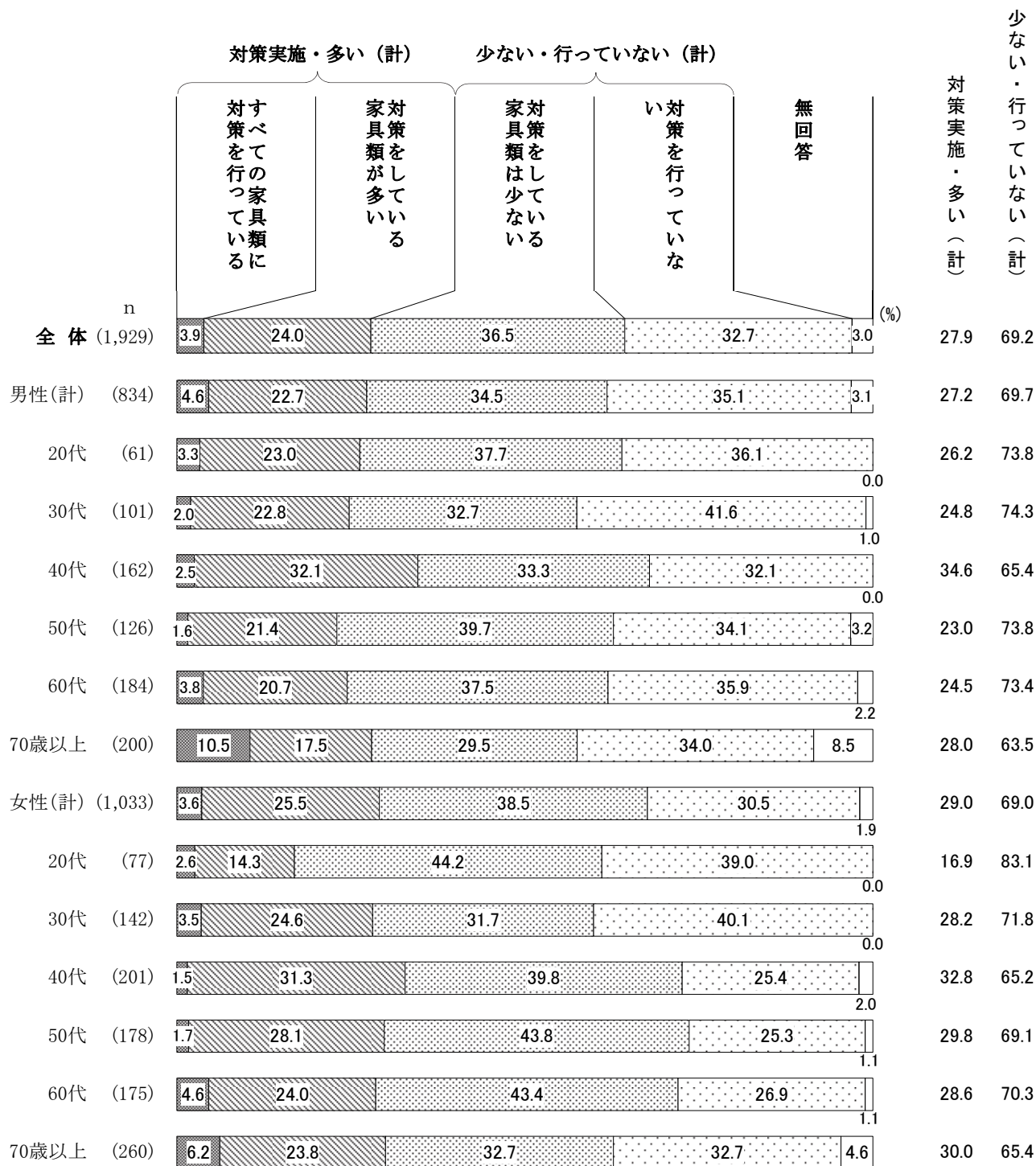
経年でみると、【対策実施・多い】は、平成26年27.1%、今回27.9%でほぼ横ばいとなっている。また、【少ない・行っていない】も、平成26年70.6%、今回69.2%と、ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、40代で【対策実施・多い】が34.6%と、他の年代より高くなっている。

女性では、30代から70歳以上で【対策実施・多い】が、いずれも3割前後を占めている。

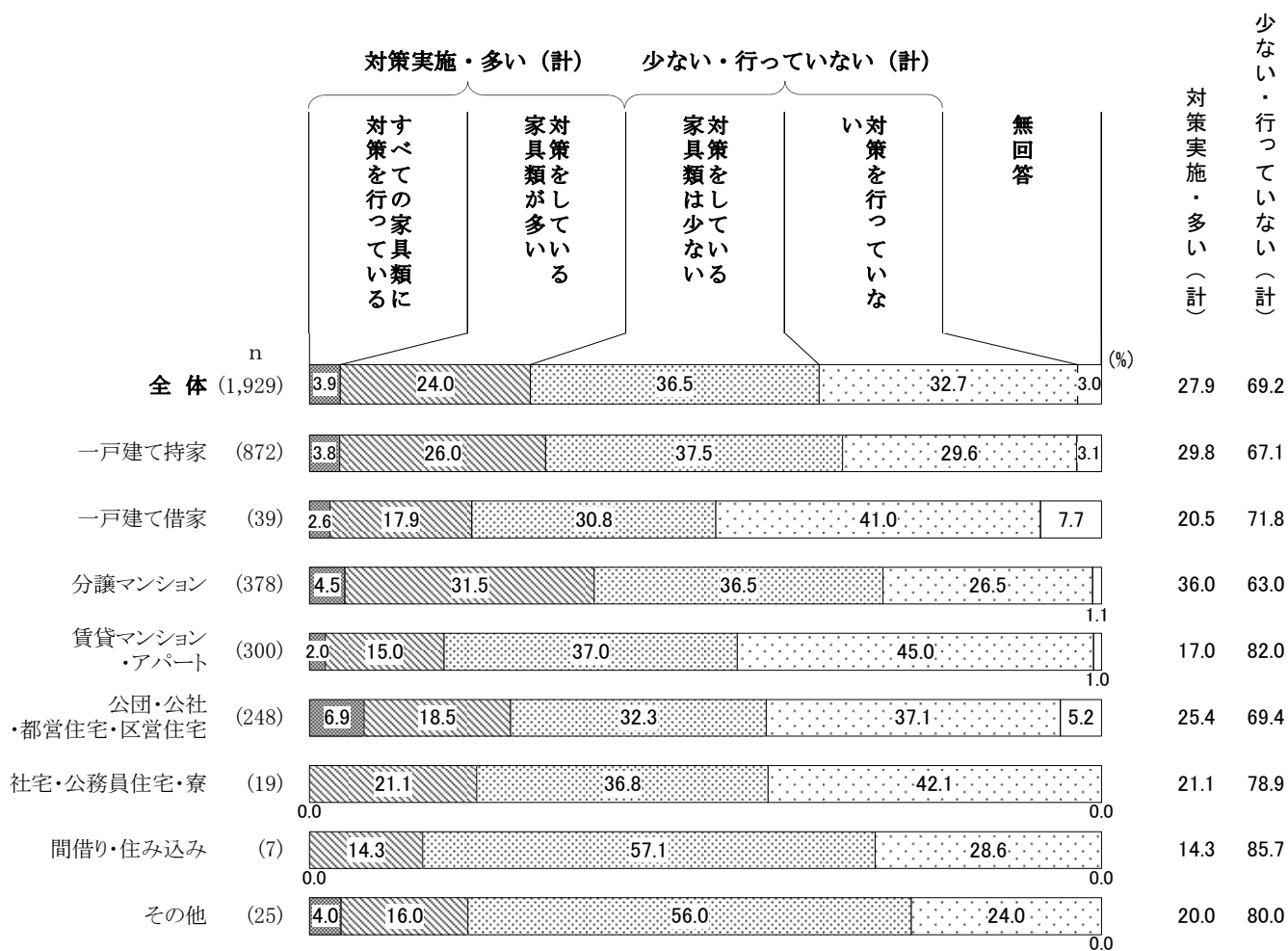
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



第3章 調査結果の分析

住居形態別で見ると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が36.0%と高くなっているほか、一戸建て持家でも29.8%と3割近くを占めている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮では【対策実施・多い】が2割前後となっている。また、賃貸マンション・アパート、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは【少ない・行っていない】が8割前後と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



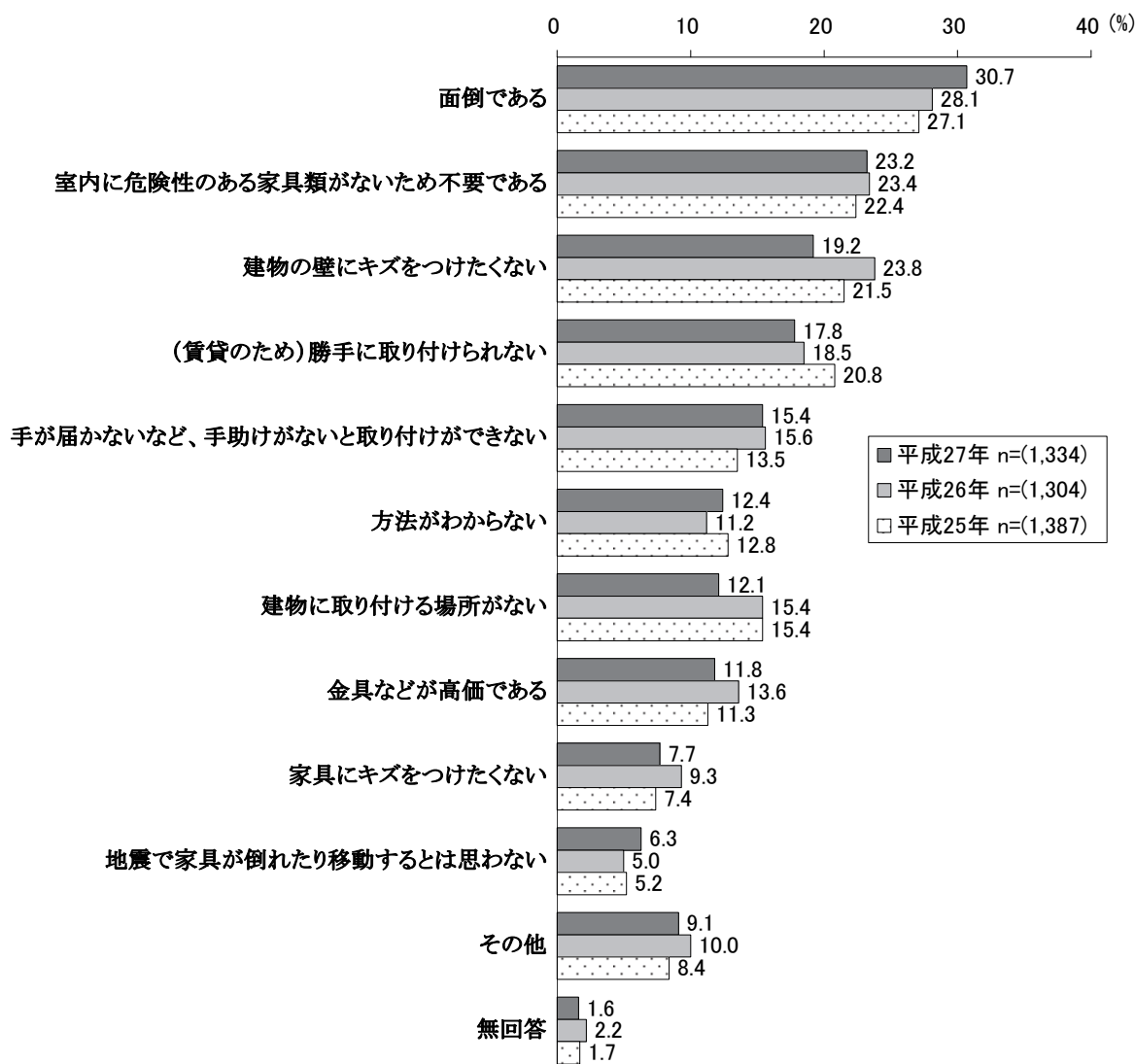
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒”が3割強

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1 経年比較／対策をしていない理由



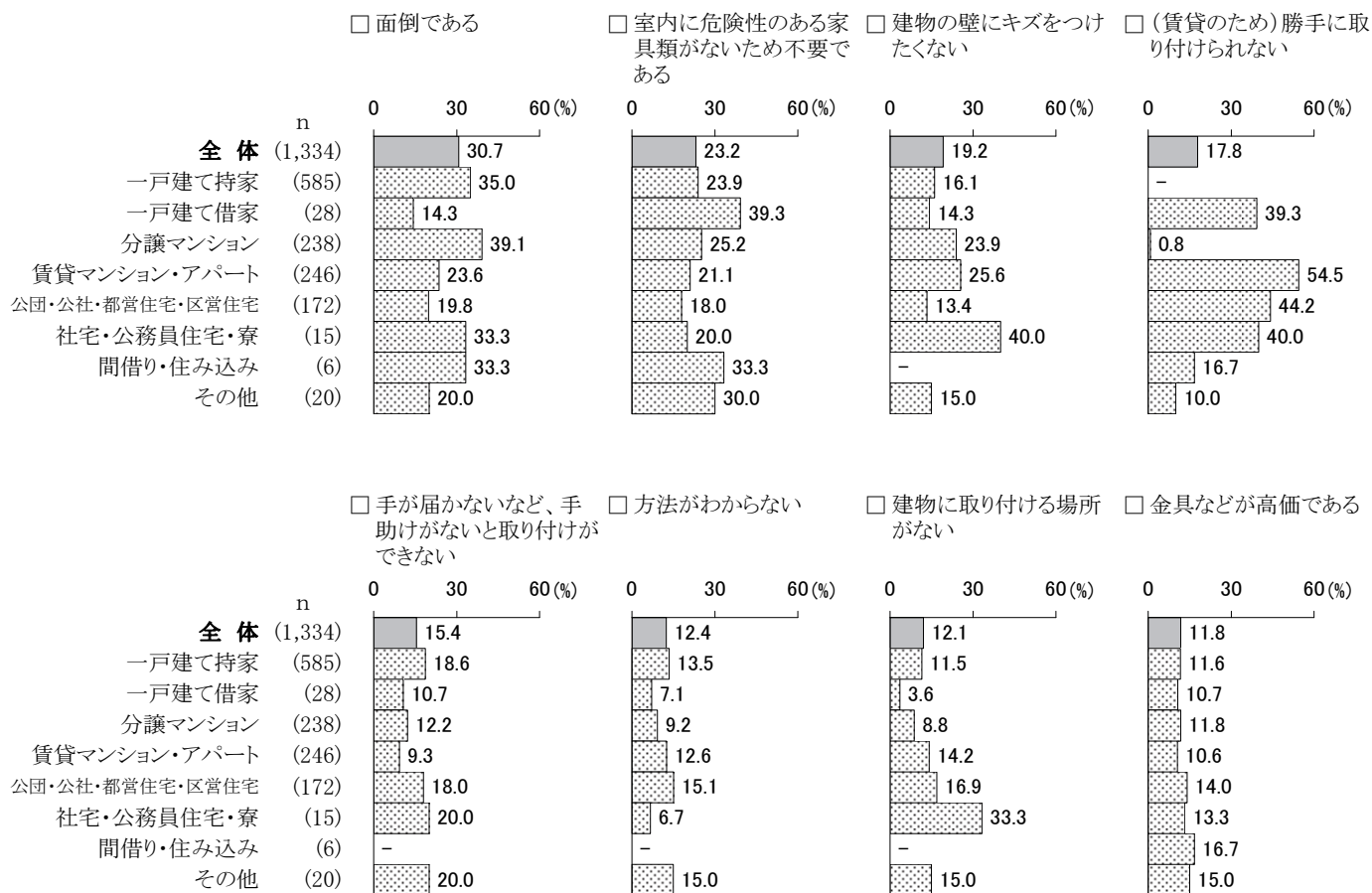
【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が30.7%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類が少ないため不要である」（23.2%）、「建物の壁にキズをつけたくない」（19.2%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（17.8%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮、間借り・住み込みでは「面倒である」が、いずれも3割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が54.5%を占めているほか、公団・公社・都営住宅・区営住宅でも44.2%となっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



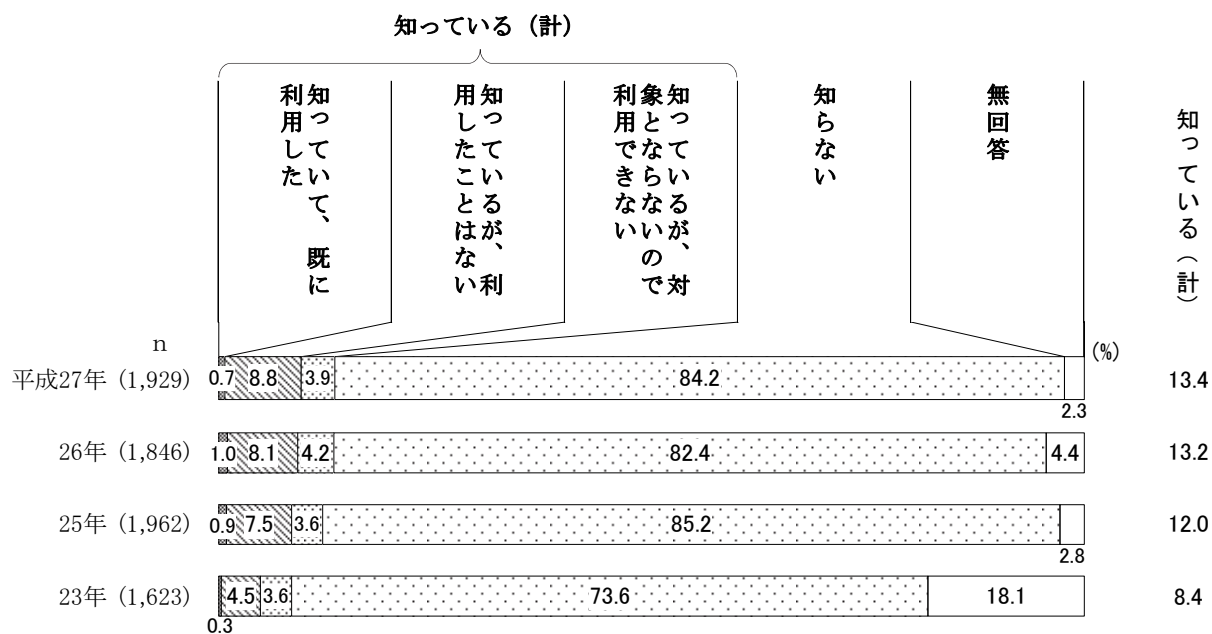
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は8割以上

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図2-7-1 経年比較／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



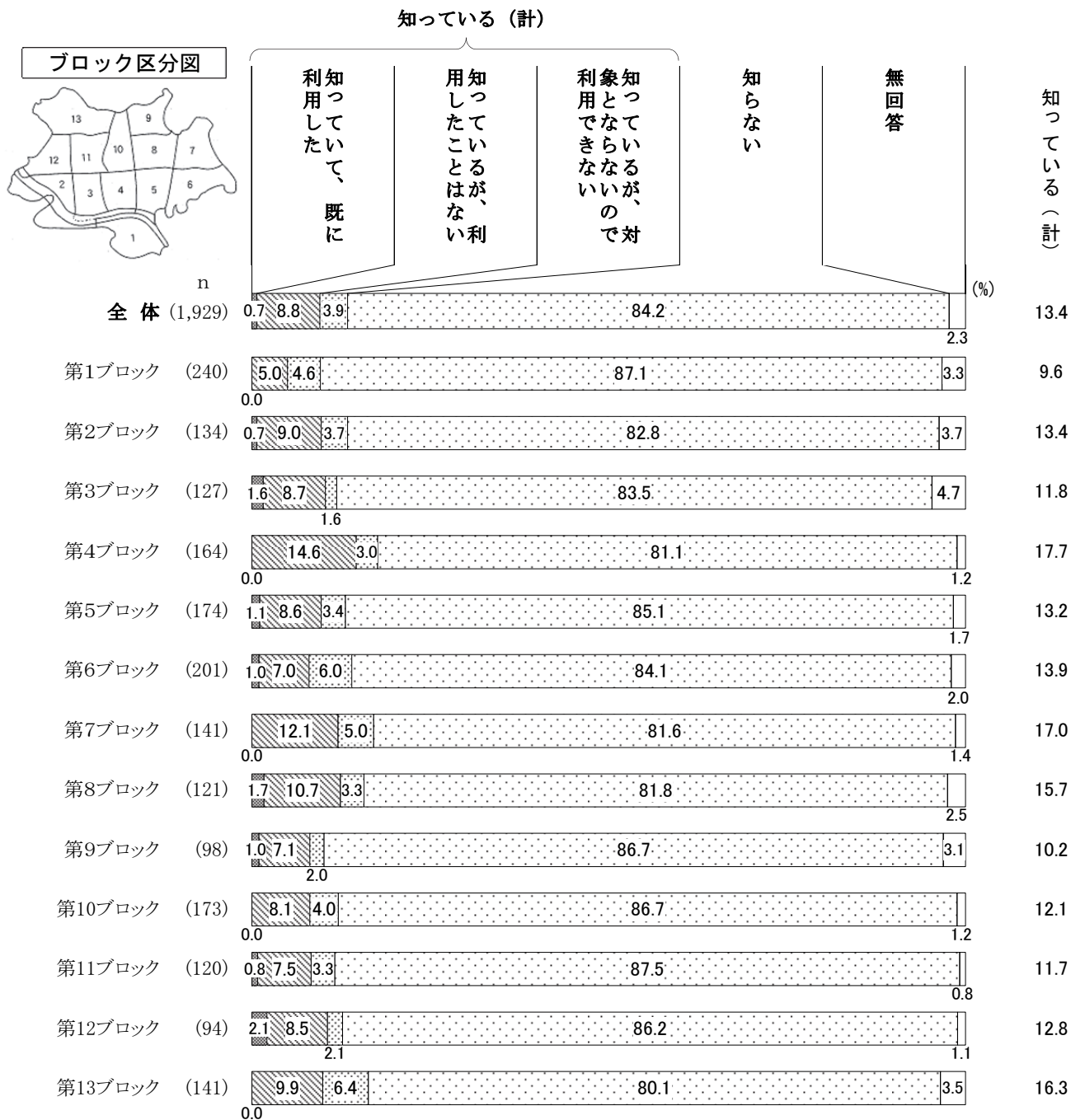
家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止等の工事についての助成金支給制度について、「知っている、既に利用した」は0.7%で、これに「知っているが、利用したことはない」(8.8%)、「知っているが、対象とならないので、利用できない」(3.9%)を合わせた【知っている】は13.4%となっている。

経年でみると、【知っている】は、平成26年13.2%、今回13.4%とほぼ横ばいとなっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第4ブロック、第7ブロック、第8ブロック、第13ブロックでは、【知っている】が、いずれも1割台半ばを超え、他のブロックよりやや高くなっている。

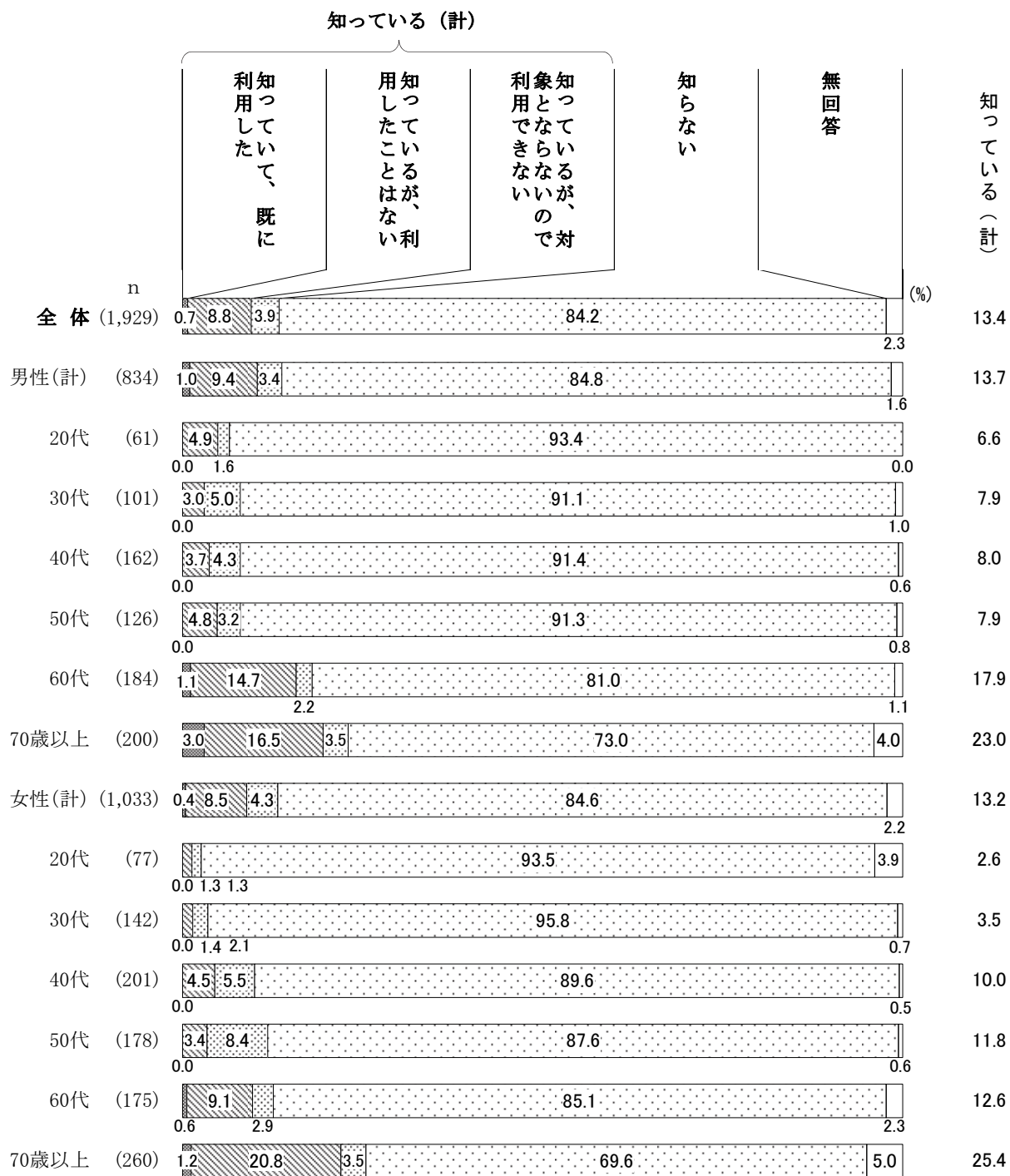
図2-7-2 地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、ほとんど男女差はない。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く、加齢とともに増加し、70歳以上では2割を超えている。

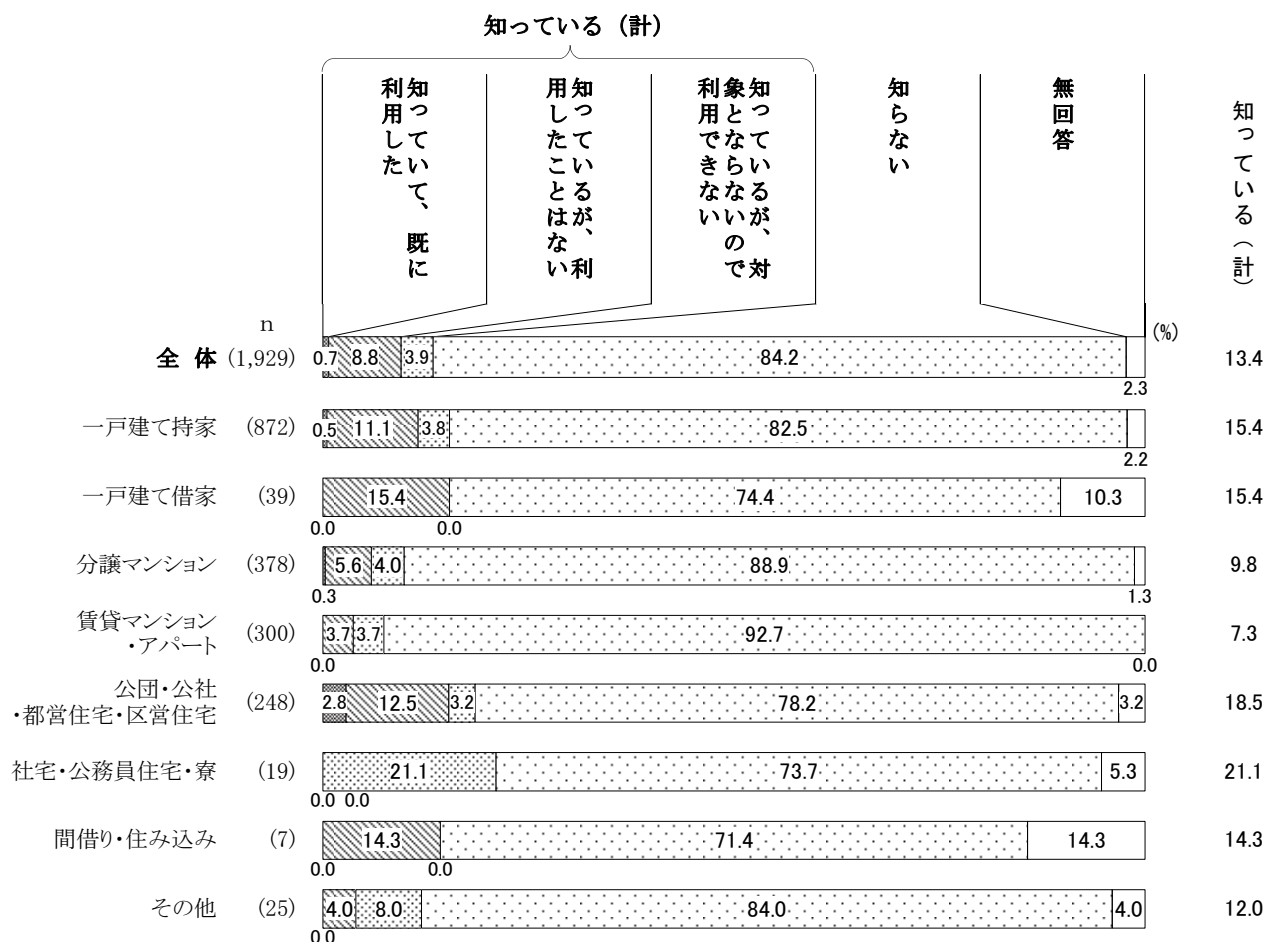
図2-7-3 性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、公団・公社・都営住宅・区営住宅、社宅・公務員住宅・寮では【知っている】が2割前後を占めて、他の住居形態より高くなっている。

図2-7-4 住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

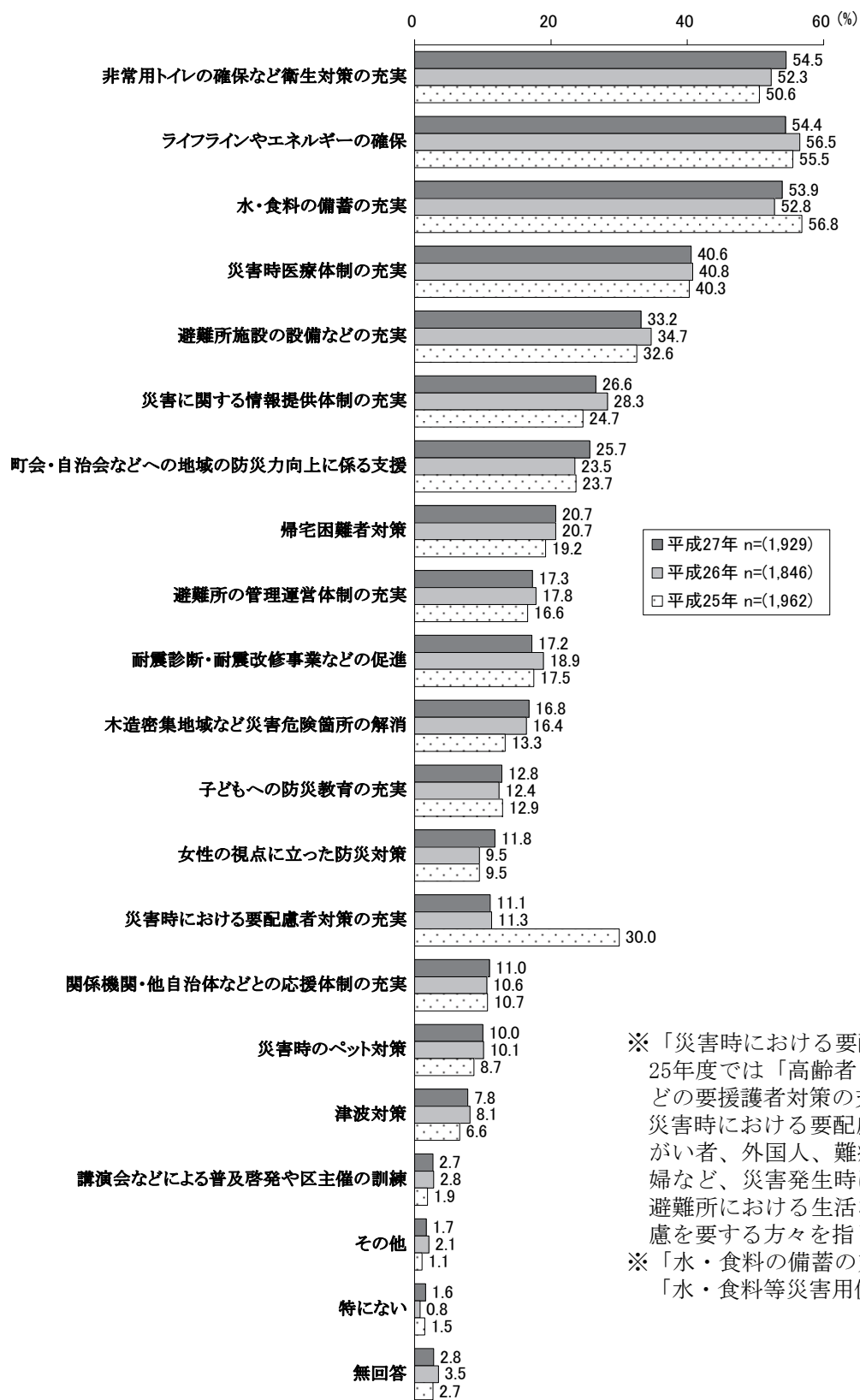


(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” “備蓄の充実” が5割台半ばで上位

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-8-1 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「災害時における要配慮者対策の充実」は、25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。
 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。
 ※「水・食料の備蓄の充実」は、25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

第3章 調査結果の分析

大地震の防災対策として力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(54.5%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(54.4%)、「水・食料の備蓄の充実」(53.9%)の3項目が、いずれも5割を超えてとくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

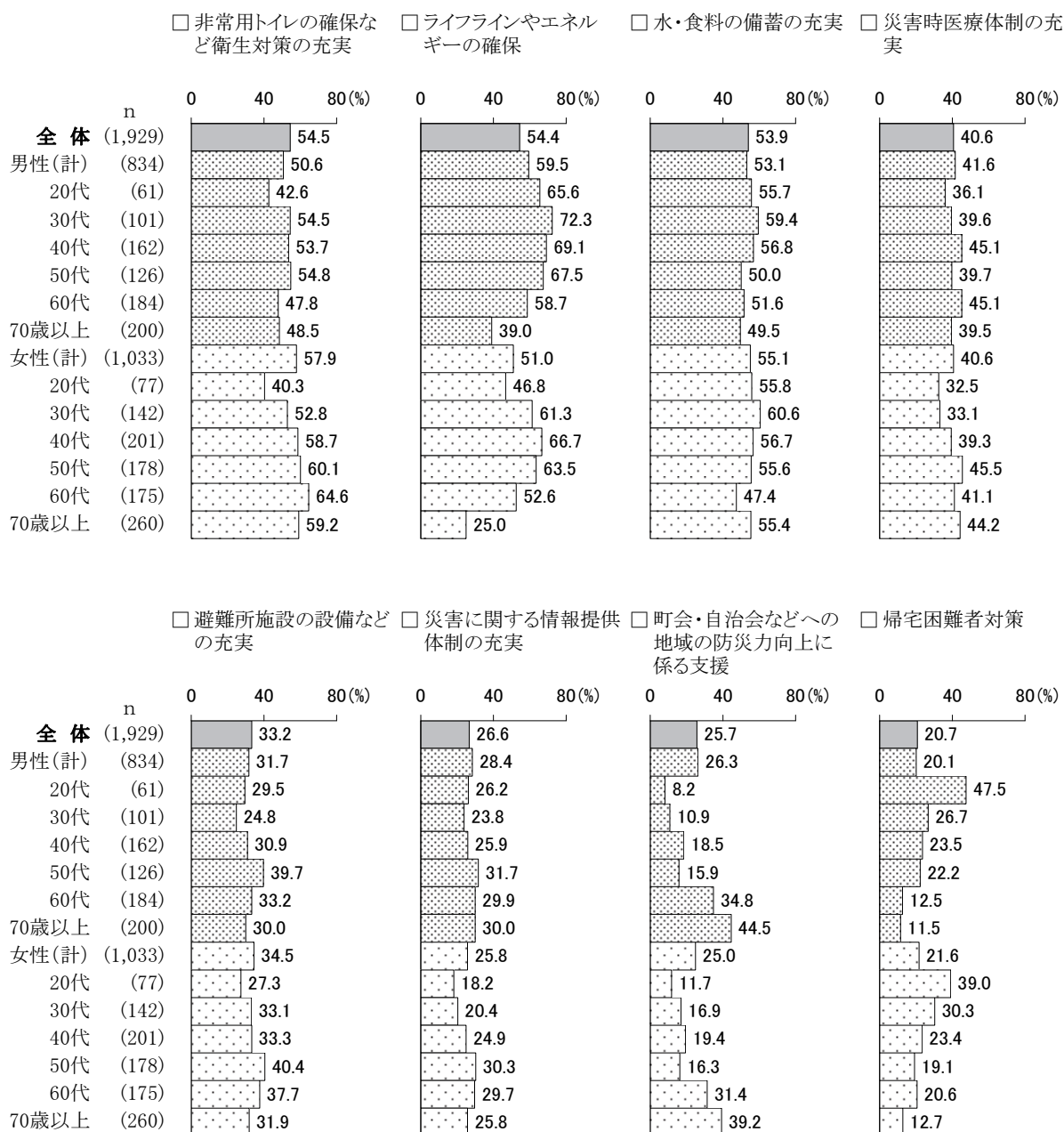
性別でみると、男性では「ライフラインやエネルギーの確保」が59.5%と、女性（51.0%）より高くなっている。一方、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が57.9%と、男性（50.6%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、30代から50代で、いずれも5割を超えている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代から50代で7割前後と高くなっている。

女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代から70歳以上で、6割前後と、他の年代より高くなっている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代から50代で6割を超えている。

図2-8-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



第3章 調査結果の分析

ライフステージ別で見ると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、高齢期を除く、各ステージで6割を超えている。また、「水・食料の備蓄の充実」が、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期では、いずれも6割前後と高くなっている。

図2-8-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

